（別紙１）

麻しん抗体検査及び風しん抗体検査を受検される方へ

◇麻しん・風しんについて◇

麻しんや風しんのウイルスの飛沫感染（「せき」や「くしゃみ」のしぶきに含まれるウイルスを吸い込むことで感染）によっておこる感染症です。

麻しんは発疹、発熱、咳、鼻水、目の充血などが主症状です。また、風しんは発疹、発熱、リンパ節の腫れが主症状です。

麻しんは「はしか」とも呼ばれ、２～３日熱が続いた後、39 度以上の高熱と発疹が現れます。肺炎などを合併しやすく、まれに脳炎が発症することもあります。

また、風しんは「三日ばしか」とも呼ばれ、発疹や発熱は３日程度で治ることが多く、まれに脳炎などの合併症を起こすことがあります。

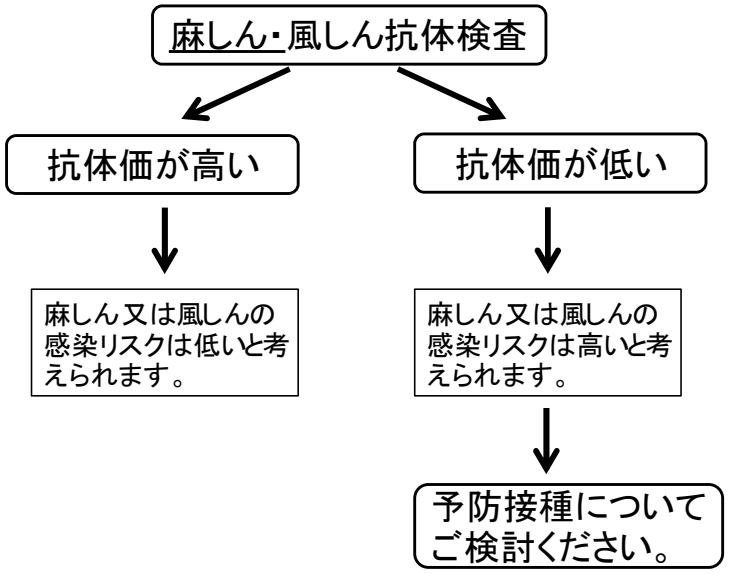
◇妊婦や乳児への影響について◇

妊婦が妊娠初期（特に妊娠２０週頃まで）に風しんにかかると、心臓病、聴力障がいなどの障がいをもった赤ちゃんが生まれる可能性があります（先天性風しん症候群）。

また、麻しんにかかると、妊婦では流産や早産の可能性が高まることや、免疫のない０歳児では大人と比べて重症化しやすいといわれています。

◇麻しん・風しん抗体検査について◇

麻しん抗体検査や風しん抗体検査を受けることで、麻しん又は風しんに対する免疫（抗体）があるか確認できます。



※予防接種の費用については自己負担となります。
費用の助成についてはお住まいの市町にお問い合わせください。

問い合わせ先：栃木県保健福祉部感染症・疾病対策課　028-623-2834

※宇都宮市にお住まいの方は、宇都宮市保健所（028-626-1114）へお問い合わせください。